

| 特集 |

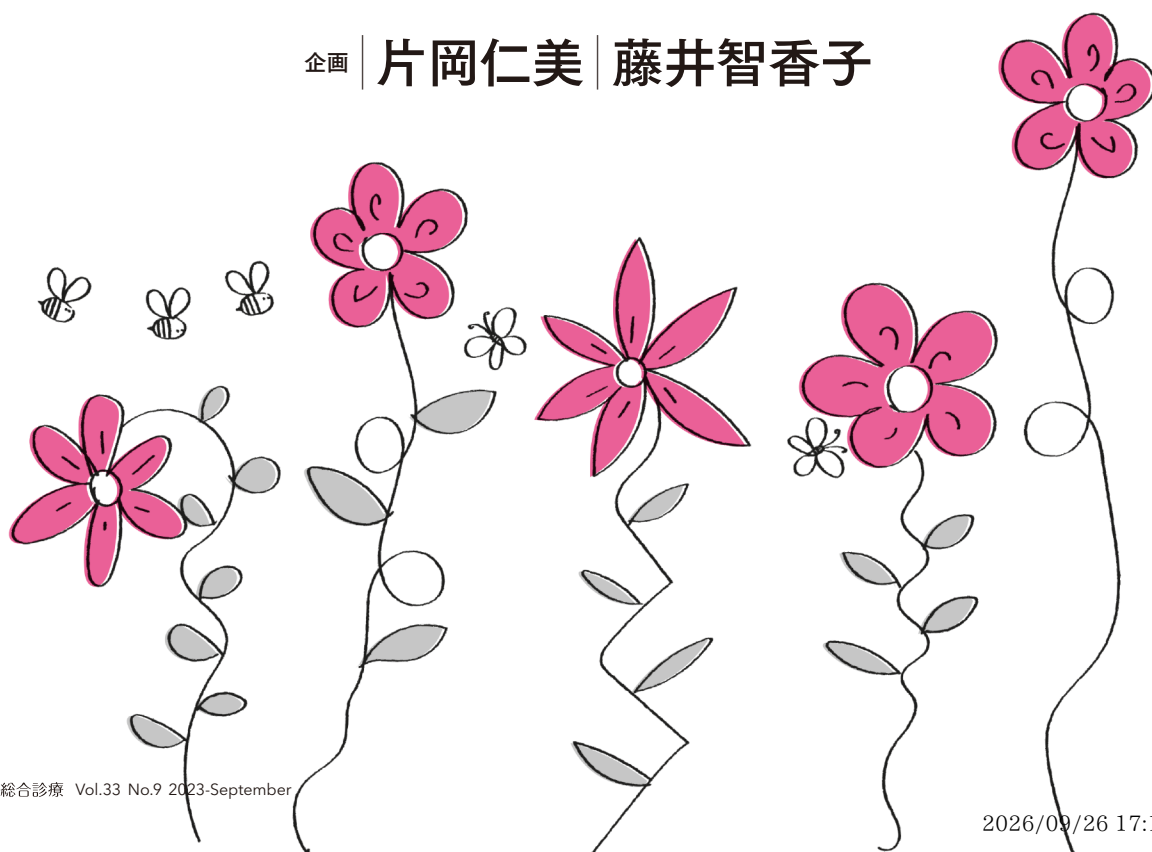
ジェネラリストのための

発達障害

(神経発達症)

入門

企画 | 片岡仁美 | 藤井智香子



わが国では、「発達障害（神経発達症）」の有病率が近年特に上昇している。
文部科学省による小・中学校教員に対するアンケート調査[※]では、
知的発達に遅れはないものの「発達障害」の可能性があり、
学習面または行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合は6.5%、
小学校1年生に限れば9.8%との結果であった。

一方、その概念が確立されたのは比較的最近であるため、
成人を中心に診療している医師にとっては、馴染みが薄いかもしいない。
しかし、大人になってから疑いをもたれる方、
小児期に診断されて成人になった方への対処、家族への接し方など、
日常臨床で発達障害に関わる機会はいっそう増えると考えられる。
“difficult patient”と位置づけられる方への対応では、
発達障害である可能性も考慮することで解決の糸口が見えることもあるかもしれない。
本特集では、各種の「発達障害（神経発達症）」の基本をアップデートするとともに、
診療においてはもちろん、+αの場面でどのように対応するとよいか、
第一線の専門家の方々に「ジェネラリストのため」にご解説いただいた。

※文部科学省：通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある
特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果, 2012.
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1328729.htm

今月の Questions

- 
- Q1 「ジェネラリスト」にとっての発達障害とは？ >>> 1036
- Q2 「自閉スペクトラム症」に治療法はあるか？ >>> 1041
- Q3 注意欠如多動症（ADHD）の患者に対する治療で、まず行うことは？ >>> 1046
- Q4 一般外来のかかりつけ患者の「知的発達症（知的能力障害）」を疑った時と、
どのように対応するか？ >>> 1051
- Q5 「大人の発達障害」への対応のポイントは？ >>> 1056
- Q6 「心身症」や「適応障害」の背景にある発達障害の特性に気づくためには？ >>> 1060
- Q7 発達障害“グレーゾーン”の診断・対処の勘どころは？ >>> 1064
- Q8 「発達障害かもしれない」と本人（成人）が精査希望したら？ >>> 1068
- Q9 「既往歴」に発達障害と書いてあったら？ >>> 1071
- Q10 「カサンドラ症候群なんです」と相談されたら？ >>> 1074
- Q11 「同僚（医師）が発達障害ではないか」と思ったら？ >>> 1077
- Q12 「わが子が発達障害ではないか」と思ったら？ >>> 1080
- Q13 神経発達症（特に自閉スペクトラム症）に合併しやすい「身体症状」は？ >>> 1083